

コミッショナー規程規則の改定について (コミッショナー委員資料)

2023年5月7日

1. これまでのコミッショナー制度の課題

- 子ども達が旗をあげられることにより萎縮、楽しくプレーできていないのではないか。
- U12では、トラップに条件がついているため、動きに制限があり、子ども達の自由な発想、予測力を高める力を奪っているのではないか。
- マンツーマンコミッショナーの判定基準にバラツキがあるのではないか。

2. 基準規則主な変更点 ※マンツーマンディフェンスの基準規則(2022改定・2023年度施行版より)

(1) U12における黄色旗の基準をU15

- ①これまでのU12の旗の基準→①あるべきマンツーマンでない
 - ②ゾーンではないがあるべき状態でない。
 - ③ゾーンディフェンス
- ※これからは、②の状態では旗はあげず、自由度をあげたい

(2) U12においてもU15同様、予測の許容をする

- ①マンツーマンディフェンスを行っている前提において、予測に基づくプレーとコミッショナーが判断した場合、基準規則違反とは見なさない。(8-1-1)
- ②予測に基づくとは、予測の根拠となる動きがあることを示す。(8-2-1)
- ③マークマンを意識せずにエリアを守るとはマンツーマンの趣旨に反するため違反行為とみなす。(8-2-2)

(3) トラップ3要素の撤廃

- ①ドリブルが行われている時、または、ドリブルが終わった時
 - ②パスが空中にある間に移動できる距離、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができる時
 - ③移動が容易に行える距離にある時
- (自分のマークマンとボールマンの距離の目安：2～3m)

(4) 赤旗の処置の変更について

赤旗1回目の再開方法

(これまで) 赤旗があげられた際、1回目は注意のみ。再開は悪質なディフェンスをしたチームのボールから再開。

(これから) 再開は、止まるまで攻撃をしていたチームのボールから再開。再開のスローイン場所は、スコアラーズテーブルの反対側のセンターライン延長線上。
ただし、アンスポーツマンライクファウル・ディスクォリファイファウルなど、フリースローの後にディフェンス側の保持から再開するケースはファウルの処置を優先する。

※ボールのコントロールが変わらない場合（オフenseがボールをコントロールが継続）

アウトオブバウンズ・キックボールの際は、オフense側のスローイン、事象の起こった近い位置からスローイン。タイマーは24秒に戻す。

※ディフェンス側がカットして、アウトオブバウンズの際は、事象の行った近い位置から、タイマーは継続でスローイン。

赤旗2回目以降の再開方法

（これまで同様）相手チームに1本のフリースローが与えられた後、※U12ではスコアラーズ
テーブルの反対側のセンターラインの延長線上からのスローインでゲームを再開する。

3. どのような場面で旗があがるのか？（コミッショナーはどこを見ているのか？）

○マンツーマンディフェンスか？ ゾーンディフェンスか？

4. マンツーマンディフェンスとは？

- ①マッチアップが5人共に見られること。
- ②スイッチは可能であるが、エリアを守り続ける目的のスイッチは許容されない。
- ③オンボールディフェンスは、マッチアップし、ボールマンのシュート・ドリブル・パスを制限しようとする。
- ④オフボールディフェンスは、マークマンとの関係により、ポジショニング・ビジョンをとること。ヘルプ・トラップ、ローテーションが発生することは可能とする。
- ⑤マッチアップの状況からポジショニング・ビジョンが適切でない状況が生じた場合、組織的、意図的でなければ個人のミス、技術不足、判断であると見なして、瞬間の現象を捉えるだけでゾーンディフェンスであるとは見なさない。
- ⑥マッチアップの状況からトラップが生じた場合、ゾーンディフェンスをしていると見なさない。ただし、これを組織的、意図的に連続して行う場合は目指すマンツーマンディフェンスではない。（スクランブルディフェンス状態）

5. ゾーンディフェンスとは？

- ①ディフェンスプレーヤーが特定のマッチアップを意識せず、組織的、意図的にエリアを守ること。
- ②マークマンの動きに対して、適切なポジション対応をしていない。
（例：マークマンについていけないこと）状況が継続的に行われていること。
- ③マークマンの動きに関係なく、ボールマンを守り続けている状態。
- ④隊形を問わず、5人・4人・3人・2人・1人がエリアを守るもの。
- ⑤マッチアップが明確でない状態が続くディフェンス
（トラップを続けている中で途中エリアを守る等）

6. マッチアップ

- ① 1対1で、ディフェンスをするオフェンス側のプレーヤーを決めることを「マッチアップ」という。
- ② ディフェンス側のプレーヤーは、次の方法等により、マンツーマンコミッショナーにマッチアップが明確にわかるようにする。
 - アイコンタクトや言葉のサイン
 - 指差しなどの手のサイン
 - ボールやオフェンス側のプレーヤーの移動に合わせ、ともに位置を移動している。

7. ヘルプディフェンス

- ① ディフェンス側プレーヤーが、リングに向かうマークマンに振り切られたり、振り切れそうになったりした場合、他のディフェンスプレーヤーはヘルプディフェンスをすることができる。(4-2-1)
- ② ヘルプディフェンスの後、ディフェンス側のプレーヤーは、直ちに自分のマークマンに戻るか、ヘルプローテーションを行いマンツーマンコミッショナーにマッチアップが明確にわかるようにすること。(4-2-3)
- ③ オフェンス側の有利となる攻撃があると予測できた場合、ヘルプすることは可能とする。(4-3-1)

8. トラップディフェンス

- ① 連続的にトラップが行われる場合、トラップからボールのあるところへのトラップへはよいが、エリアに戻ってからトラップを仕掛けることは違反行為と見なす。

9. プレスディフェンス

- ① プレスディフェンスであっても、マッチアップの基準に合致したディフェンスでなければならず、様々なゾーンディフェンスまたはコンビネーションディフェンスを行ってはいけない。(7-1-1)
- ② プレスディフェンスをする際には、マッチアップが行われていることが必要である。(7-2-1)
- ③ スローインするプレーヤーをマッチアップするディフェンス側のプレーヤーがエリアを守っていると判断された場合、違反行為と見なす。(7-2-2)
- ④ マッチアップするオフェンス側プレーヤーがいないが、マッチアップエリア内に戻っているディフェンス側プレーヤーがいることは構わない。(7-3-3)

10. 新基準規則の導入時期

- 全国大会から、新基準規則1部導入。(赤旗1回目の処置導入)
- 4月から新基準規則導入

11. 指導者のみなさんへ改めて伝えたいこと

この制度は、練習、ゲームを通して、子ども達一人一人のバスケット技術の向上、バスケットの楽しさを味わってもらうことを理念に改定されています。

その理念が、かかわる子どもたちの指導に活せられる指導者であってほしいと願います。